

## 会 議 録

会議名 (付属機関等名)	川西市健康づくり推進協議会		
事務局(担当課)	健康増進部 健幸政策課		
開催日時	令和4年1月12日(水) 午後2時00分から午後4時00分まで		
開催場所	川西市役所4階 庁議室		
出席者	委員	出席 藤末委員、坂田委員、篠村委員、藤木委員、松浦委員、嶋川委員、岡崎委員、磯部委員、江見委員、坂口委員、木村委員、武内委員、竇田委員、瀬尾委員、中山委員 ウェブ出席 樋口委員、藤原委員、白井委員	
	その他		
	事務局	健康増進部 荒崎部長、松本副部長 健幸政策課 坂上課長、岡本課長、佐藤課長、石見主査、竹田主査、篠原主任、宮代主任、曾野歯科衛生士、矢野主事、中嶋主事 教育保育職員課 高橋課長	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	議題  川西市健幸まちづくり計画の進捗状況(令和2年度分)について 現在の「川西市健幸まちづくり計画」の1年延長について		
会議結果	事務局より健康まちづくり計画の進捗状況(令和2年度分)について委員へ説明を行った後、質疑応答を行った。 事務局より「川西市健幸まちづくり計画」の1年延長について委員へ説明を行った後、質疑応答を行った。		

## 審議経過

### 開会

- ・委員の出席状況確認（ウェブ出席者については、疎通及び本人であることを確認）
- ・委員自己紹介
- ・会長・副会長の選出  
藤末委員が会長、松浦委員が副会長に選出
- ・会長挨拶
- ・事務局紹介
- ・健康増進部長挨拶

### 協議・報告等

- ・川西市まちづくり計画の進捗状況(令和2年度分)について事務局より説明

#### 【質疑・応答】

（委員）

コロナ禍の中ではあるが がついている項目があるか詳細が具体的にはどのような取り組みをしたのかせっきくの機会なので教えてください。

（事務局）

ウェブ予約の導入や日曜健診の拡充により受けやすい健診体制づくりを と評価している。

（委員）

胃がんや大腸がんの検診は内視鏡が主流になってきているように思うが保健センターとしての考え方は？

（事務局）

現状、胃がん検診は、保健センターの集団検診ではバリウム、人間ドックではオプションとして内視鏡を取り扱っている。国の考え方では現在バリウムから内視鏡への移行過程である。また、昨年11月から市内のいくつかの医療機関で胃カメラでの検診が可能となった。大腸がん検診は便潜血の検査となっている。これは国の考えに基づくものである。

（委員）

事務局から報告があったように11月から個別の検診で内視鏡の胃がん検診を行っているが、キャパシティーにはまだまだ余裕があるので、市民への周知が足りていないと感じている。大腸がん検診については、全員に内視鏡となるとマンパワーが足りないため、便潜血によるスクリーニングが現実的である。国の考えも同様。

保健センターではCTを使用した大腸がん検診を行っていて、受けるほうにとっては非常に楽な検査なので、医師会と行政でもっと市民へ紹介していきたい。

（委員）

様々な良い取り組みをしているのは分かったが、市民への周知が足りていないのでPRをもっとお願いしたい。

（事務局）

広報誌、ホームページ、健康づくりBOOKなどで周知はしている。また、個別に案内通知をしているものもある。ただ、まだ不十分な点多々あるかと思うので、今後検討していく。

(会長)

広報活動というのはしているつもりでも、市民は聞いていないという、このギャップをいかに無くすかが大事。良い取り組みについてはもっと堂々とアピールいただきたい。医師会も歯科医師会も協力しながら、他市がやっていないこともたくさんしているので、よろしくお願いします。

(委員)

今日の午前中に市の防災訓練がありましたけれども、阪神淡路や熊本地震でも避難所における口腔衛生であるとか感染症予防といったところは非常に大事と思っております、災害時、非常時の市民の健康を守っていくための項目がなにかありましたらご紹介をいただきたい。

(事務局)

口腔衛生に関しては、まずは保健師が動き、そのあと必要な方に対してという形になる。

医師会、歯科医師会を含めて市の防災計画のほうに、そういう体制を記載している。

また、歯科衛生士会のほうでも、県単位で非常時の対応ができるようなシステムを構築しているところである。

感染予防の取組として、昨年度から災害対策本部に保健師1名配置し、体制づくりに努めておると、避難所運営における感染予防というところで、今年度も危機管理課と一緒に職員の訓練を実施している。また、三師会とともに、災害時の体制についても検討を続けているところである。

(委員)

農産物直売所の廃止について詳しく説明を。

(事務局)

人手不足や新型コロナのためマルシェという一堂に集う農産物直売イベントが中止になったが、一方で個人直売活動の支援の一環として、地域の登録直売所にのぼりを設置したり市ホームページに直売所マップを掲載したりするなど、他方面から農産物の販売支援を行っていく。

(委員)

和食と日本型食生活の違いはどこにあるか説明いただきたい。和食と日本型食生活は違うと考えている。

(事務局)

和食は米飯を中心とした献立のことで、日本型食生活は献立に限らず広い意味を意図している。

(委員)

日本型食生活は、元来ある日本の和食(一汁三菜)に抜けております肉類・乳類・卵類を適宜足したバランスのとれた形になろうかと。それが日本型食生活。和食というのは、ご飯を中心として一汁三菜で、醤油、味噌といった発酵文化の塩分が多い傾向にある。これが和食というふうな形になろうかと。(給食に)和食という言う言葉を使わない方が良いかと思う。

(委員)

公園緑地課の考え方では1公園に遊具は3つまでだが、3つの中での健康遊具の考え方はどうなっているのか。また、公園ごとにブランコが危険とのことで撤去されていたり、されていなかったりどのように考えているのか。

(事務局)

公園緑地課が所管なので把握できていない。改めて回答する。

(委員)

令和4年度の川西市総合医療センター開院に際し、2次救急病院ができることやかかりつけ医を持つ

ことをどう市民へどう情報発信していくのか。

(事務局)

ご指摘いただきましたように大変貴重な機会であるので、市としても新たな医療体制を構築するという一つのきっかけになる。それに合わせてこれまで医師会歯科医師会の先生方中心に、話を進めていた地域包括ケアシステムなどを市民の皆さんに分かっていただく情報提供が大事だと思う。

(委員)

クリニックから病院へ紹介し、紹介しっぱなしでなく、またクリニックに戻すような形を取っていただきたい。

(会長)

病院は外来をやればやるほど赤字になるシステムであり、急性期の患者を診るのが病院であって、慢性期を診るのは、かかりつけ医であるというそういう住み分けをどんどん加速している。病院と診療所の連携というには非常に進んできていると思う。

事例として、新型コロナワクチンの集団接種で、開業医の先生が延べ 1000 人、病院医師が延べ 500 人の延べ 1,500 人の医療の先生方が協力していただいてそれから歯科医師会の先生方も、薬剤師会、看護師、行政等々合わせて、延べ 3 万人以上の、協力を得て実施してきた。

9 月に新病院ができるわけですけど、こういった連携は、医師会としてもさらに進めていきたい。

(会長)

休日応急診療所、休日応急歯科診療所のあり方について見直しの必要があると考えているが、歯科診療所のニーズはどうか。

(副会長)

休日応急歯科診療所は、ニーズ減ってきているが、年末年始はニーズが多い。日曜日でも診療している歯科が増えた。

(会長)

休日応急診療所は、年末年始やゴールデンウィークのニーズは多い。インフルエンザの流行期も多い。普段の日曜日はほとんど利用がない。新病院が急性期病院なので、機能分担を見直す機会がきている。

(委員)

ワクチン接種で総合体育館を使用できないが、他市のように集団でなく個別医療機関での接種を進めないのか。

(事務局)

集団接種が病院の救急担当医師を配置することができ、副反応の対応や救急体制の面から最善と考えている。総合体育館の利用については、ワクチン接種の優先度が高いと考えている。

(会長)

運動できないことは申し訳ないが、行政・医師会、市内全病院が 13 回会議を行い意思統一し、集団接種が 1 番安全な方法なので集団接種を選んだ。

(委員)

オンライン教室やウェブ予約などコロナ禍の中でも良い取り組みとして ICT の活用があるが、アフターコロナを見据えてどう考えているか。

(事務局)

コロナをきっかけにオンライン化が進んだ。アフターコロナもより進めていきたい。

(委員)

コロナ禍において、食に関する活動が大きく制限されている。レシピを配布するなどできることはやっている状況だが、引き続きよろしく願いしたい。

(委員)

コロナの影響で家に閉じこもりがちになっている高齢者が増えている。体も弱くなり、認知症にもなりかけているという話を聞く。早く収まって欲しい。

(委員)

新しい総合医療センターには駐車場がないと聞いているが、どうなのか。

(事務局)

数が少ないということは聞いているが、この場ではっきり回答できないが、少しでも良くなるように対応していかないとと思っている。

・現在の「川西市健幸まちづくり計画」の1年延長について事務局より説明

【質疑・応答】

(委員)

1年延長とのことだが、更に延長となるようなことはあるのか。

(事務局)

今回の延長については、市の最上位計画である総合計画が期間延長をしたため、そこに合わせる形としているため、総合計画が再度延長というようなことになれば、検討する必要があるかもしれない。ただ、あまり次の計画策定があまりに遅くなると違う課題も出てくるので、できるだけ令和6年度からの計画という形で策定できればと思う。

## 開 会

・次回は、今年の夏の終わり頃に令和3年度の進捗状況の報告、時期計画策定に向けたアンケート調査の内容などについて協議する旨を事務局より説明し、閉会。